

『神奈川県における小児RSウイルス感染症入院症例の 全県疫学調査（2023-2025年）』 に関するご協力をお願い

研究の目的と意義	RSV（Respiratory syncytial virus：呼吸器合胞体ウイルス）は、特に基礎疾患のある乳幼児において重症化リスクが高い普遍的な呼吸器感染症ウイルスです。重症化予防のために、従来は流行期間中に毎月投与が必要なパリビズマブが唯一の選択肢でしたが、2024年からは長時間作用型で単回投与が可能なニルセビマブが新たに選択肢に加わりました。しかし、両薬剤の保険適応には差異があり、またニルセビマブ投与150日以降の臨床効果については明らかになっていません。本研究は、モノクローナル抗体製剤の適応となる児におけるRSV入院の実態を明らかにし、神奈川県の流行疫学を踏まえた最適なモノクローナル抗体製剤の投与時期や適応を決定することを目的としています。
研究の方法	レセプトデータベースから後方視的にRSV入院患者の月別症例数やモノクローナル抗体製剤の投与実績などのデータを収集します。また、モノクローナル抗体製剤適応児のRSV入院症例については、投与時期や重症度などの情報を電子カルテから後方視的に抽出します。
対象者	西暦 2023年1月1日から2025年12月31日の間に RSウイルス感染症で入院された方
利用する試料/情報	出生年月、在胎週数、出生体重、母アブリスボ接種、アブリスボ接種の週数、シナジス/ベイフォータスの適応理由、シナジス①（投与開始年月・投与終了年月）、シナジス②（投与開始年月・投与終了年月）、シナジス③（投与開始年月・投与終了年月）ベイフォータス①（投与年月）、ベイフォータス②（投与年月）、RSV入院日、RSV入院詳細（肺炎・酸素投与・HNFC・人工呼吸器・入院日数・転帰）
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた試料の残余検体、診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	【研究代表機関】 藤沢市民病院 臨床検査科 清水 博之 【研究分担機関】 聖マリアンナ医科大学 小児科 勝田 友博 神奈川県立こども医療センター 感染免疫科 今川 智之 横浜市立大学医学部 小児科 伊藤 秀一 【既存試料・情報のみの提供を行う機関】 済生会横浜市東部病院 市川 泰広（提供責任者） その他、神奈川県内約40施設の小児科医師・医療機関が参加予定
試料/情報の院外提供	提供先機関・提供先責任者：藤沢市民病院 臨床検査科 清水 博之 提供方法：電子メール
結果公表	感染症関連学会（日本感染症学会、日本小児感染症学会など）での発表、論文執筆（Pediatric Journal of Infectious Diseasesなど）を予定しています。
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年11月30日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 こどもセンター / センター長 / 市川 泰広
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 こどもセンター / 市川 泰広